

INDEX

- p1 第5回女性の健康週間 県民公開講座
「人生100年時代、見える目で豊かな時間を」の報告
- p3 第16回男女共同参画フォーラム

第5回女性の健康週間 県民公開講座 「人生100年時代、見える目で豊かな時間を」の報告

岡山市立市民病院眼科/岡山県医師会女医部会 委員 坂口 紀子

「女性の健康週間」は毎年3月1日～8日と定められており、「女性が生涯を通じて健康で明るく充実した日々を自立して過ごすことを総合的に支援する」期間として、各地で種々の催しが行われています。岡山県医師会でも、2017年から女医部会が企画・運営を行って県民公開講座を開催してきました。2017年の第1回は「骨粗鬆症」、2018年は「認知症」、2019年は婦人科、泌尿器科領域の「排尿障害その他」の話題、2020年は「めまい、耳鳴り、難聴」と講座開催は順調に回を重ねました。第1回を除いて、参加者のアンケートをもとに次回のテーマを選び、毎回多くの方々に聴講いただきました。ところが2020年はダイヤモンドプリンセス号から始まったコロナ禍の1年目でした。講座の企画を始めた2019年夏には予想もしなかった感染拡大下で、2月24日の講座を会場参加型で行うことは、かなりの決断力が必要でしたが、幸い、無事に講座が開催できて、関係者一同胸をなでおろし

ました。

さて、2021年は眼科関連の講演でと方針は決まっていたものの、先行きの見えない新型コロナ感染者数の推移に、2021年の講座開催は断念しました。

その後、県民のワクチン接種が進み、オンラインでの講演会も少しずつ開催されるようになりましたので、2022年はハイブリッド方式での講座開催としました。岡山県医師会では初めてのハイブリッドの県民公開講座でしたが、これまでの受講者の年齢層、前回インターネットからの申し込みに困難を感じた参加者が少なからず存在したことなどから、参加者の利便性のために会場参加を併施する方が良いと考えたからです。その結果、会場136名、オンライン188名の参加者数でした。

2022年のテーマは「人生100年時代、見える目で豊かな時間を」とし、講演1.「知っておきたい白内障の話」（岡山大学・木村修平先生）講演2.「緑内障



会場の様子

について知っておくべきこと」(岡山済生会総合病院・成田亜希子先生)の2講演をいただきました。白内障は眼科領域で最も手術件数が多く、関心の高い疾患です。また、緑内障は日本における失明原因の第1位であり、40歳以上の日本人の20人に1人が緑内障にかかっているといわれています。いずれも知っておきたい眼疾患の代表であり、お二人の講師は、診断から治療まで具体的でわかりやすい内容でご講演くださり、大変好評でした。当日のアンケートの一部を掲載します。



木村修平先生



成田亜希子先生



県民公開講座反省会

ちょうど、今年はACジャパンによるラジオ、テレビなどの緑内障の広報も開始されました。早期発見と適切な治療で、皆さんの見る力ができるだけ保たれるよう願っています。

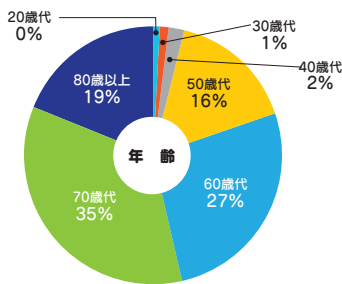
2023年は、皮膚に関する講演と決まりました。これもまた、講演を聞かせていただくのがとても楽しみです。

女性の健康週間 県民公開講座(R4.3.13)アンケート結果

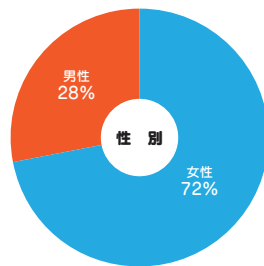
【324名(会場参加:136名、WEB参加:188名)

回答者 197名(会場:111名、WEB:86名) ※無回答を除く】

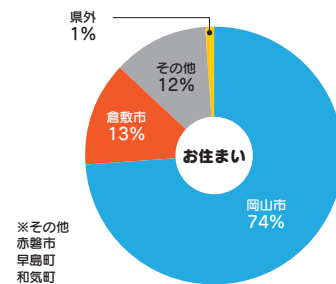
1-1、年齢



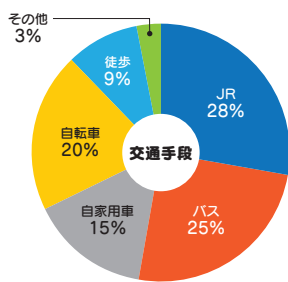
1-2、性別



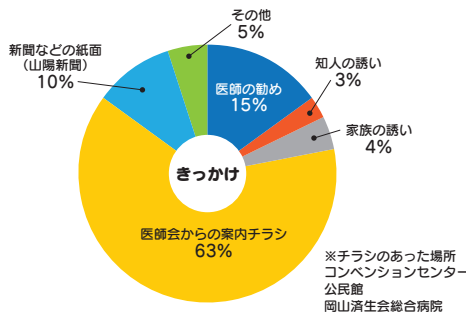
1-3、お住まい



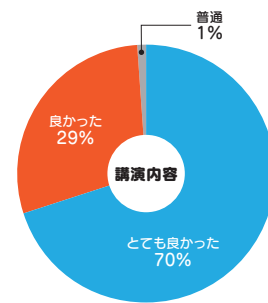
1-4、交通手段



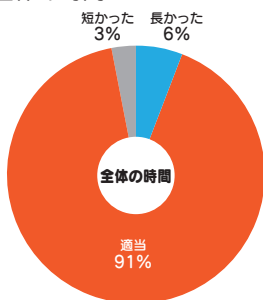
1-5、きっかけ



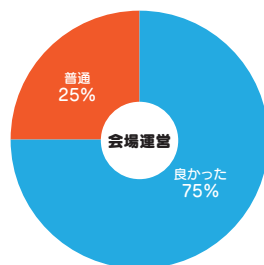
2、講演内容



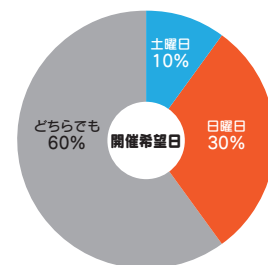
3、全体の時間



4、会場運営について



6、開催希望日



第16回男女共同参画フォーラム

岡山赤十字病院／岡山県医師会女医部会 部会長 渡邊 恭子

第16回男女共同参画フォーラムが大分県医師会の担当で令和4年4月23日（土）に開催された。メインテーマは「医療人を育む一歩から～医師の多様な働き方について～」だった。

基調講演Ⅰは日本眼科医会会長白根雅子先生が「日本眼科医会の男女共同参画－医会活動に女性が関わる意義－」と題し講演された。日本眼科医会は約15,000人が加盟しており女性の役員は23%、代議員は15%となっていて、女性医師が41%を占めその65%が勤務医ですが、病院所属は6割にとどまり、これが基幹病院の眼科医不足の要因の一つになっている。2021年に「男女共同参画」を「ダイバーシティ推進」へと脱皮させ「医療の発展」と「医師のwellbeing」の両立を目指している。

基調講演Ⅱは大分大学医学部附属病院心臓血管外科の宮本伸二教授が「悠遠の男女共同参画－苦悩する心臓血管外科医」と題しブラック診療科の心臓血管外科（3Kでなくて18K）は15年で女性は5倍以上に増えたものの女性医師の割合は6%と外科の中でも低い。忙しさに影響する因子としてICU術後管理のタスクシフティングを推進しており、女性医師間のネットワークづくりを目指している。結婚、出産、子育ては医師として最も忙しく大切な時期とも重なり個々のキャリアアップと家庭の維持を上司と一緒に考えていかなければならない。男女共同参画を推進するにはロボット

（AI）技術、ICTなど科学技術開発・導入が有力であり大分県ではコミュニケーションアプリのJOIN導入を進め、CTのDICOM画像が施設間で共有でき情報と時間の短縮になっている。

日本医師会女性医師支援センターの報告では、女性医師バンクの令和3年度実績は846件の成立があった。「医師の多様な働き方を考えるハンドブック」について周知がありHPからダウンロードできる。

シンポジウムでは中津市立中津市民病院心臓血管外科の漆野恵子先生の「わたしのベストポジション～ドイツからはじまる七転び八起き～」で二人の子育て、ドイツ臨床留学中に闘病もあるもドイツ流働き方：主治医性＋オンコール性による完全当番、夜勤の免除、嘱託契約で時間内に効率よく仕事を済ませる・有給6週間で年休取得率100%や看病休暇もあることが続けられた誘因であったとのことだった。

「オール大分女性医師復帰支援への取組と必要性について」では県・医師会・大学病院の三位一体で復帰支援プログラムを作成し、リーダー研修・女性医師交流会・キャリアパス相談会・キャリア教育・医療人パパの会（ペンギンズ Penguins）は男女双方にとって働きやすい環境づくりとして珍しい取り組みである。コロナ禍で医師会を結んでのオンライン開催だったがとても有意義であった。



部会長 渡邊 恭子 (岡山市)	委員 奥本 香苗 (倉敷)	委員 大塚ふよう (赤磐)
副部会長 清水 順子 (玉島)	委員 西川 真那 (倉敷)	委員 藤原みち子 (和気)
副部会長 村田亜紀子 (勝田郡)	委員 草場珠郁子 (児島)	委員 齋藤 稚里 (北児島)
副部会長 大野 広子 (玉野市)	委員 赤野 祐子 (津山市)	委員 杉原いつ子 (都窪)
委員 坂口 紀子 (岡山市)	委員 西岡 奈穂 (笠岡)	委員 新津 純子 (浅口)
委員 金重恵美子 (岡山市)	委員 小田 幸江 (井原)	委員 山田いずみ (苫田郡)
委員 荒木詞奈子 (岡山市)	委員 漆原嘉奈子 (吉備)	委員 菊池 了子 (美作市)
委員 川中 美和 (岡山市)	委員 生田 夏実 (高梁)	委員 岩本さちみ (久米郡)
委員 吉岡 敏子 (西大寺)	委員 溝尾 妙子 (新見)	委員 片岡 仁美 (岡大)
委員 横尾 雅子 (倉敷)	委員 木村 恵 (御津)	(担当理事) 山田常任理事、岡理事

令和4年度

岡山県医師会女医部会 関連行事

11月

23日(水) 令和4年度女性医師支援・ドクターバンク連携中国四国ブロック会議
広島県医師会 ハイブリッド開催

12月

10日(土) 女医部会委員会
学術奨励賞・会長賞・天晴れジョイボスアワード表彰式
岡山県医師会館

11日(日) 第5回天晴れおかやま女性医師リーダー養成ワークショップ
岡山県医師会館 ハイブリッド開催

18日(日) 第41回山陽女子ロードレース大会(救護室応援)
岡山県総合グラウンド

2月

23日(水) 女性の健康週間 県民公開講座
岡山県医師会館 ハイブリッド開催

※ 新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、「延期」または「中止」になることもございますのでご了承ください。

編集後記

2022年も早いもので終わりに近づいていますが、新型コロナウイルス感染症は第8波の感染拡大が危惧されています。私は診療所で家庭医療・総合診療医として乳幼児から成人まであらゆる世代の患者さんの診療に携わっていますが、コロナ禍が長引くことでの影響がじわじわと出てきているように感じ、見えない蜘蛛の糸に囚われているような息苦しさを感ずることがあります。

身近なところでは、子どもの学校、保育園等での修学旅行や運動会、学習発表会が無事開催できるのは子育て世代の関心事だと思います。我が家にも小学6年生がおり、修学旅行がどうなるかとかなり気を揉みました。結果として、子どもの学校では無事広島まで泊まりがけで行って行くことができ親としてはホッとしたのですが、同じ津山市内でも学校によって修学旅行を日帰り遠足に変更したところ、時期を延期して1泊2日で県外へ行ったところがありやや複雑な気持ちでした。新型コロナウイルス感染症

が流行し始めてからこのように学校行事の中止・縮小が多数行われてきていますが、学校行事は子どもの非認知能力を養う場として重要とされ、学校行事の中止・縮小が子どもの非認知能力にマイナスの影響を与えることがわかってきて、中長期的な影響が懸念されているそうです。特に、コロナ禍の負の影響は低所得者層に集中して生じており、所得格差も拡大傾向にあることが知られ、そうした環境にある子どもたちが多様な経験ができなくなったり人間関係を構築する機会が限定的になったりし、さらに貧困の連鎖が起こりやすい状況に陥っていると考えられるのです。

こうした弊害に加え、貧困や生活環境は、健康格差の原因にすらなるとされます。子どもたちや地域の人たちの健康をいかに守るか、垣間見える貧困にも目を向けつつ対応していけたらと思います。

会員のみなさまもしばらく世知辛い状況が続きそうですが、どうぞご自愛ください。

勝田郡医師会 村田亜紀子